

古楽における教会音楽の興隆

081018

Program

中世のヨーロッパ音楽史において、その源流を辿ると、ローマ・カトリック教会の典礼聖歌に到達します。そして、ヨーロッパの多くの国々の教会・修道院では、聖歌は歌唱されてきました。

この典礼聖歌は、16世紀初頭、「宗教改革」を契機に、ローマ・カトリック教会から分離しましたルター派教会では、「コラール」という衆賛歌が誕生し、新たな様式で歌い継がれてきました。

時代は流れ、「宗教改革」から約200年を経過。巨匠「バッハ」は、「コラール」を基本に、宗教音楽の頂点を極めました。本日は、「バッハ」の宗教音楽の秀逸の作品を、ご鑑賞ください。

〜 ЖЖЖ 〜

ヨハン・セバンスティアン・バッハ(1685~1750)

■ ミサ曲口短調 BWV232 演奏時間 約29分

- 冒頭合唱：「主よ、あわれみたまえ」 (キリエ)
アリア：「父の右に座したもう者よ」 (グローリア)
アリア：「また、信ず、主にして生命を与えたもう聖霊を」 (クレド)
アリア：「世の罪を除きたもう」 (アニュス・デイ)
終結合唱：「われらに平安を与えたまえ」 (アニュス・デイ)

サー・ゲオルク・ショルティ指揮 シカゴ交響合唱団 シカゴ交響楽団
1990年1月 シカゴ・オーケストラ・ホール 収録

■ カンタータ BWV147・645(140) 演奏時間 約8分

- 「心と口とおこないと生活で」 第6曲 クリストフ・キルハイ編曲
「目覚めよと呼ぶ声あり」 第1曲

ルートヴィヒ・ギュトラー(トランペット)、クリストフ・キルハイ(オルガン) 1977年 収録

< 休憩 >

■ マタイ受難曲 BWV244 演奏時間 約44分

- 冒頭合唱：「来なさい娘たち」
アリア：「イエスのもとで、目覚めていよう」 第20曲
コラール：「おお人よ、お前の大きな罪を嘆くがよい」 第29曲
アリア：「憐れんでください、神よ」 第39曲
アリア：「私の心よ、おのれを清めよ」 第65曲
終結合唱：「私たちは涙を流しながらひざまつき」 第68曲

サー・ゲオルク・ショルティ指揮 シカゴ交響合唱団 シカゴ交響楽団
1987年3月 シカゴ・オーケストラ・ホール 収録

参考文献 新西洋音楽史(上) D.J.グラウト他 音楽之友社 1998.5 発行
キリスト教音楽の歴史 金沢 正剛 音楽之友社 2005.2発行